

企画展「モンゴル・シベリアの文化 —日本人研究者の記録から—」(仮称)



Special Exhibition "Expeditions in Mongolia and Siberia by Japanese Scholars in the 20th century"

2012年7月28日(土)～9月23日(日)  
July 28 to September 23, 2012

日本・モンゴル外交関係樹立40周年を記念して、考古学的・民族学的調査の嚆矢となった20世紀初頭の鳥居龍蔵、1930年代からの江上波夫の調査を中心に、騎馬遊牧民と狩猟民の活躍したこの地域の諸文化を紹介します。

関連企画 「ゲルに集まれ! 2012」(仮称) "Have Fun at Mongolian Ger! 2012"

2012年8月最終土曜、日曜(予定) August, 2012

全館無料の2日間、中庭にゲルを建てるほか、ミニコンサートやワークショップなど楽しい企画がいっぱい。詳細は決まり次第チラシ、ホームページ等でお知らせします。 Details will be announced on our website.

横浜ユーラシア文化館

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12  
Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

開館時間 9:30 a.m.～5:00 p.m.  
(入館は4:30 p.m.まで)  
※電力事情等により変更になることがあります。  
その際は当ウェブサイトでお知らせいたします。

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は次の平日)  
年末年始(12月28日～1月3日)他  
※2012年7月27日(金)と9月25日(火)は、展示替えのため休館します。

入館料 一般200円、小・中学生100円  
※特別展・企画展開催中は料金が変わることがございます。  
毎週土曜日は、小・中学生、高校生無料  
「障害者手帳」、横浜市の「濱ともカード」等をお持ちの方には、入館料免除の制度がありますのでお尋ね下さい。

12 Nihon Odori, Nakaku, Yokohama, Japan 231-0021  
Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

Hours 9:30 a.m.-5:00 p.m.  
(Admission until 4:30 p.m.)  
Closed Mondays and year-end/New Year's recess  
(December 28 to January 3)  
Closed: July 27 and September 25, 2012 for change of exhibition.  
Admissions Adults: 200 yen  
Children: 100 yen

<http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>



アクセス  
みなとみらい線日本大通り駅3番出口すぐ  
JR関内駅南口・市営地下鉄関内駅1番出口  
から徒歩約10分

Zero min. walk from Nihon Odori Sta.  
on the Minato Mirai Line.  
10 min. walk from Kannai Sta.  
on the JR Line or Municipal Subway.



目次 Contents

02 アートウォッチング  
Art Watching

漢王朝の馬たち  
Han Dynasty Horses  
福原庸子 Yasuko Fukuhara

04 ギャラリートーク  
Gallery Talk

写真パネル展  
「新しい都市の交通・LRT  
～海外を走る次世代の路面電車～」  
LRT : A New Form of Urban Public Transportation  
Around the World  
可知博道 Hiromichi Kachi  
English Abstract by Yasuko Fukuhara

06 蔵品紹介—常設展示室から—  
The YMEAC Collection: From the Permanent Exhibition

鍬  
Cauldron  
畠山禎 Tei Hatakeyama

08 蔵品紹介—新収蔵資料—  
The YMEAC Collection: Recent Additions

10 ミュージアムショップへようこそ!  
Welcome to the Museum Shop!

12 催し物案内  
Exhibitions and Events

12 利用案内  
Visitor Information



かん おう ちょう うま  
漢王朝の馬たち

Han Dynasty Horses

陶製馬俑頭部(とうせいばようとうぶ)  
画像石拓本(がぞうせきたくほん)  
中国、漢、紀元前2世紀～後1世紀  
横浜ユーラシア文化館蔵

Earthenware Horse Head and Rubbing from Stone Relief  
China, Han, 2nd century B.C.E to 1st century C.E.  
The YMEAC Collection



(図2)

死者とともに副葬された馬俑の頭部(図1)です。頸の太さ、頬の丸み、臉の膨らみ、そして額から鼻までの優美な線が強調された理想像になっています。馬の横向きの美しさが優先された塑像で、正面(図2)から見ると写実的ではないことが明白です。耳は差し込み式の穴が残るので、角度を調節しながら仕上げたのでしょう。鼻息荒く、興奮した馬の特徴を捉えた見事な造形美です。頸から上の類例が他にも知られているので、いくつかに分割して全体像を形成したと推測されます。

勇ましい馬の姿は、漢代の地下墓室を飾った画像石にも刻まれています。騎馬人物に先導される2頭立ての箱型馬車列(図3)。力強く進もうとする5頭の脚の描写は、単調な繰り返しを避けることで、御者の見事な手綱さばきを感じさせます。



(図1)

騎馬で戦う兵士は弓矢や槍を構えています(図4)。当時の武器の記録です。中には八の字型に開脚した「フライングギャロップ」で疾走する馬もいます。これは東西に共通する古代の伝統的な表現で、天を飛ぶが如く速い馬の姿です(図5)。

漢王朝においては社会の発展と共に交通手段としての馬車が普及し、軍事面では伝統的な歩兵に代わって騎兵の戦力が増大されます。武帝(在位 紀元前141年～前87年)は、西方への大遠征でより速く強靱な「汗血馬」を得たとされていますが、今世紀になって武帝陵園内の副葬坑で大量の馬の骨が発見され、歴史的資料として注目されています。

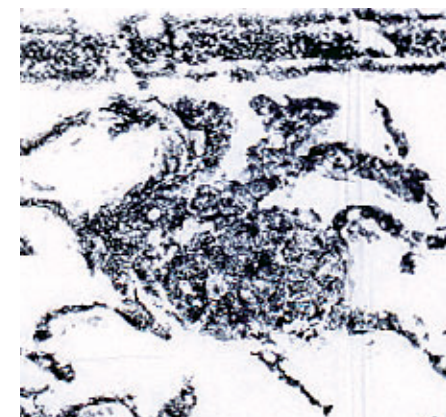


(図3)



(図4)

This is an idealized profile of an alert horse (fig. 1) with eyes focused, mouth opened, and nostrils flared. The front view (fig. 2) is slightly distorted, or sacrificed, for the sake of a perfect equine profile. It is an animal *yong* or earthenware figure buried in the Han tomb to serve the soul of the deceased. The rubbing of stone relief depicts an equestrian figure clearing the way for a procession of carriages (fig. 3), and a battle scene of cavalymen equipped with weapons (figs. 4, 5). In both scenes the artists represent horses with much attention to their alertness and



(図5)

movements—particularly of the legs—superbly manipulated by each rider.

These objects from the Han subterranean world illuminate the horse's significance in ancient Chinese culture, particularly of the Han. Horses, a symbol of beauty and authority, also became military necessities for Han rulers. Quite recently, the bones of eighty horses were unearthed from sacrificial pits within the mausoleum of the emperor Wudi (r. 141-87 B.C.E.), whose legendary desire for the superior "blood-sweating" horses of Central Asia now awaits scientific substantiation.



## 写真パネル展 「新しい都市の交通・LRT ～海外を走る次世代の路面電車～」

LRT : A New Form of Urban Public Transportation Around the World

LRT(ライトレール・トランジット)は、「次世代型路面電車」と記される新しい交通システムです。LRTは特定の形態を指す言葉ではないため定義は難しいのですが、環境に優しく、バリアフリーでコンパクトなまちづくりなど、自動車依存から脱却した「持続可能な都市」を実現するための道具として都市計画の中に組み込まれた鉄道交通がLRTと言えるでしょう。

「次世代型路面電車」と呼ばれるのは、高架や地下のように上下の移動が不要で、必要十分な速度と輸送力を持ち、徒歩圏内に駅(停留所)がある、といった理想を突き詰めると路面電車に行き着くことが多いからです。

いま、横浜都市発展記念館で特別展「横浜にチンチン電車が走った時代」を開催中です。路面

電車は、日本ではノスタルジーを感じさせる乗り物と捉えられがちですが、世界では先進的な公共交通として注目されています。そこで特別展と連携し、横浜と海外、過去と現在の対比で一層理解が深まる仕掛けを作りました。それが海外のLRTを紹介するパネル展「新しい都市の交通・LRT～海外を走る次世代の路面電車」です。

今回は、海外のLRT事情を積極的に日本に発信している日本路面電車同好会の協力により、国内外27都市のLRTを紹介しました。横浜の姉妹都市・友好港もできるだけ採り上げています。各都市の風景に溶け込む斬新なデザインの電車たちを海外旅行気分でご覧いただきながら、路面電車は決して過去の乗り物ではないことをイメージしていただければ幸いです。



イスタンブル(トルコ) 撮影 服部重敏 Istanbul, Turkey. Photograph by Shigenori Hattori



(上) マンチェスター(イギリス) 撮影 宇都宮淳人 Manchester, UK. Photograph by Kiyohito Utsunomiya  
(下) パリ(フランス) 撮影 横尾昌 Paris, France. Photograph by Tadashi Yokoo



(上) リヨン(フランス) 撮影 西田敏 Lyon, France. Photograph by Takashi Nishida  
(下) ストラスブール(フランス) 撮影 堀切邦生 Strasbourg, France. Photograph by Kunio Horikiri

Displayed in the YMEAC (2nd floor) are precious photographs of LRT (Light Rail Transit) from around the world taken by Japan Tramway Society. LRT, a new-generation railway being environment-friendly and accessible to people with all levels of mobility, is integral to the compact-city planning which is sustainable and less dependent on the automobile.

While Japanese streetcars, as showcased in the exhibition featuring the Yokohama Tramway

organized by the Museum of Yokohama Urban History (3rd floor), tend to be viewed with certain nostalgia, LRT in many cities abroad attracts much attention as cutting-edge transportation method. The chosen photographs of LRT against beautiful sceneries from twenty-seven cities, including sister-cities of Yokohama, will definitely give the audience a feeling of being on a trip around the world.

(English abstract by Yasuko Fukuhara)

### 写真パネル展「新しい都市の交通・LRT～海外を走る次世代の路面電車～」

【主催】横浜ユーラシア文化館・横浜都市発展記念館

【協力】日本路面電車同好会

【会期】2012年1月28日(土)～4月1日(日)

【会場】横浜ユーラシア文化館2階常設展示室(一部)

常設展観覧料(大人200円、小・中学生100円)、または横浜都市発展記念館特別展「横浜にチンチン電車が走った時代」観覧券でご覧いただけます。3月3日(土)～3月18日(日)は、当館隣り横浜情報文化センター1階情文プラザにて写真パネル展「世界のトラム」も同時開催。

"LRT: A New Form of Urban Public Transportation Around the World"

Photographs by Japan Tramway Society / January 28-April 1, 2012 / More Information → [www.eurasia.city.yokohama.jp/](http://www.eurasia.city.yokohama.jp/)

# The YMEAC Collection

## From the Permanent Exhibition

ふく  
鍑  
Cauldron

青銅  
中国、春秋後期、紀元前6～5世紀  
Bronze  
China, Late Spring and Autumn Period, 6th-5th century B.C.E.

丸く膨らんだ器体に下に向かって広がる圈足。今から3000年近く前に、ユーラシアの草原地帯に現れたとされる騎馬遊牧民たちが、その後長い間使い続けた金属容器「鍑」の典型的な形です。

このような容器は、中国北辺からモンゴル高原、南シベリアを越えて、黒海北岸、東ヨーロッパに至るユーラシアの草原地帯に広く見られます。煤が付着した状態で出土したものが、また、墓に納められていた鍑の中から羊の骨やスープの痕跡が見つかった例もあり、鍋として調理に使われていたと考えられています。墓に納められていたものは、埋葬儀礼に使われたとも考えられ、祭祀と結び付けられた用途も想定されます。

さて、広大なユーラシアの草原地帯の各地で長い間使われ続けた鍑ですが、地域や時代によって異なる特徴を持っています。ここで紹介する

鍑の特徴の一つは、真上から見ると、器体が丸みを帯びた長方形であることです。大多数の鍑は、上から見ると円形です。一方の径の長いものは、中国と黒海北岸に見られますが、不思議なことに、両者の間に位置する天山北方やシベリアには知られていません。

全体を二つに分割するような垂直方向の凸線も特徴的です。これは、鑄造時の鑄型の合わせ目です。垂直方向の鑄型の合わせ目は、同時代の、より西方の鍑にはなく、中国青銅器に見られるものです。中国の鑄造技法で、草原の形が作られた例といえるでしょう。把手に見られる縄紐を燃ったようなデザインにも中国の影響が指摘されています。

草原世界と中国の定住世界との交流が垣間見える1点です。

Cauldrons are cooking pots of early nomads in Eurasian steppes. They were used as early as the early first millennium B.C.E.

Cauldrons with globular body and cone-shaped base are popular in all of the steppe regions in Eurasia. But cauldrons with such rectangular or oval body—when viewed from above—appeared in China and the northern coasts of the Black Sea, and none has been discovered between these two regions.

This cauldron has vertical lines on the body and base, which are mold marks left by the joints. Cauldrons with such marks are not known in the western region of the Eurasian steppes. They are reminiscent of ancient Chinese bronze casting process. The design of these handles also indicates Chinese influence.

This cauldron in the shape of nomads' favorite was made by Chinese technique.





# The YMEAC Collection

## Recent Additions (April 2011 to March 2012)

蔵品紹介 新収蔵資料

※敬称略

収蔵番号 YMEAC-11-0001~0017

### 写真アルバム・フィルム、民族資料など

点数 816点  
地域 イラン、エジプト、アフガニスタン、ブータンなど  
寄贈者 小倉洋子



エジプト 1985年 Egypt, 1985  
小倉洋子撮影 Photograph by Yoko Ogura



帯と織物 Sashes and Textile  
ブータン Butan  
20世紀 20th century  
22×201cm, 22×196cm, 32×59cm, 27×94cm  
Donated by Yoko Ogura

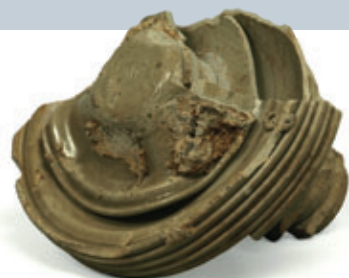
収蔵番号 YMEAC-11-0018~0065

### 民族資料、陶磁器など

点数 217点  
地域 フィリピン、ベトナム、中国  
寄贈者 青柳洋治・智巳



ワニの歯とヘビの骨の首飾り Necklace  
フィリピン、ルソン島北部 Northern Luzon, Philippines  
19~20世紀 19th-20th century  
41×35cm  
Donated by Yoji Aoyagi



青磁未製品 Celadon Bowl Fragments  
ベトナム中部ゴサイン黨(カイメイ採集) Go Sanh, Central Vietnam  
チャンパ 15世紀 Champa, 15th century  
上から5枚目の復元図(D.) 20cm  
Donated by Yoji Aoyagi

収蔵番号 YMEAC-11-0066~0084

### 陶製明器(後漢)など

点数 19点  
地域 中国など  
寄贈者 林裕己



灰陶猪圈 Gray Pottery Pigpen  
中国 China  
後漢 1~3世紀 Eastern Han Dynasty, 1st-3rd century  
高(H.) 13.2cm, 20.5×19.5cm  
Donated by Hiromi Hayashi

2011年4月から2012年3月までにご寄贈いただきました資料をご紹介します。

このほか、学習教材として、ベトナムの背負い籠(田中和彦)、モンゴルの移動式住居ゲル(大阪 個人)、縄文土器片(天野進)、青銅鏡レブリカ(林裕己)、サウジアラビアの女性の衣装アバヤ(小倉洋子)などをご寄贈いただきました。そのうちのいくつかは、早速体験学習や学芸員実習などに活用させていただいております。

※( )内は寄贈者。敬称略。

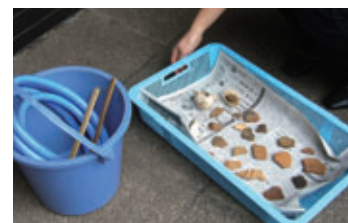
なお、出版物(新聞切り抜きやCDを含む)につきましては、数量が多いため紙面の都合上本誌ではご紹介しておりませんが、整理ができ次第順次インターネットで検索していただけるかたちをとっています。当館ホームページの蔵書検索システムをご利用ください。

ご寄贈くださいましたみなさま、ご寄贈にあたりご協力いただきましたみなさまに、厚く御礼申し上げます。

蔵書検索システム→<http://eurasia.yokohama.opac.jp/>



ワークショップでベトナムの背負い籠を紹介 2011年8月  
Vietnamese Bamboo Basket. Donated by Kazuhiko Tanaka



学芸員実習で土器洗い 2011年9月  
Fragments of Jomon Pottery. Donated by Susumu Amano



ゲルを建てる練習 2011年12月  
Mongolian Ger. Donated by Osaka Private Collector



# ミュージアムショップへようこそ！ Welcome to the Museum Shop!

## Original Goods MAP

当館のミュージアムショップは、  
収蔵資料をもとにデザインしたオリ  
ジナルグッズのほか、展示図録、ユー  
ラシアに関連する書籍などを販売し  
ています。1階の無料ゾーンにあり  
ますのでなたでもご利用できます。  
今回は、オリジナルグッズのもと  
になった収蔵資料が、展示室のどこ  
にあるのかご紹介します。  
このマップをもって探してみて  
ください。

**5** ミニタオル 300円  
ラスター彩人物像  
イラン  
14～15世紀

**6** 一筆箋 300円  
青緑釉把手付水瓶  
イラン  
12世紀

**1** 丸まった角と  
ふさふさな毛に注目！  
一筆箋 300円  
ボールペン 150円  
ミニタオル 300円  
土製羊  
シリア  
紀元前第2千年紀前半

**2** 当館のキャラクター  
「こぶちゃん」のモデルです。  
こぶちゃん胎 (15個)  
250円  
青銅製こぶ牛  
イラン西北部  
紀元前第1千年紀

**7** 古代のハンコ。湿った粘土に  
コロコロ転がして模様をつけます。  
円筒印章 1100円  
近日中に  
新商品  
入荷予定！

**12** A5クリアファイル 200円  
古代西アジアの円筒印章（闘争図）

**8** ボールペン 150円  
一筆箋 300円  
鳥形石製品  
底には不思議な図像が  
彫り込まれています。

**9** トートバッグ 840円  
動物文敷物  
イラク  
20世紀

**10** A5クリアファイル 200円  
メモブック 200円  
女性用上衣  
タイ、ヤオ族  
20世紀

**11** トートバッグ 840円  
女性用上衣  
タイ、アカ族  
20世紀

**4** 玄武文瓦当拓本  
中国 前漢  
紀元前3～2世紀

**3** 四神マグネットセット 450円  
東西南北を守る古代中国の空想動物。  
朱雀は南、玄武は北を守ります。

**色と形**  
5 6 8

**技**  
9

**装う**  
10～12

**伝える**  
ライブラリー  
情報検索装置

砂漠と  
草原

こぶちゃん→  
入口

白いのは、植物の種子のビーズ。

他にも鳥のような  
動物が見えます。